

# サンフロント21 懇話会

〒410 沼津市魚町1番地  
-8560 サンフロント5F  
静岡新聞社・静岡放送  
東部総局内  
事務局  
TEL 055・962・6520

2017. 2. 1 No.110



協力/井草呉服店

静岡新聞社 社長

## 大石 剛

新年あけましておめでとうございます。この年末年始、県内は天候にも恵まれ、穏やかに新しい年を迎えることができました。株価も年明け最初の取引となる大発会は、前日に米国株が上昇した

ことや円安ドル高の進行を受けて、大幅反発と堅調な滑り出しとなりました。ただ、その一方で、世界情勢は予断を許さない状況となっています。

1月20日に米国の新大統領に就任したトランプ氏の保護主義的な主張に対し、世界は警戒感を強めています。さらに今年、大統領選や総選挙が行われる欧州主要国ではグローバル化に対する不信が渦巻いているようです。

こうした中で、伊豆市で自転車競技が行われる2020年東京五輪・パラリンピックが迫ってまいりました。こしは開催に向けた準備が本格的に始動する年になりそうです。当懇話会では五輪競技開催を契機に、地域におけるスポーツ産業振興を推進するとともに、新たな観光誘客やまちづくりを支援していく所存です。引き続き、会員の皆さまの温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

サンフロント21懇話会代表幹事  
スルガ銀行 会長

## 岡野 光喜

新年を迎え、会員のみなさまにお慶びを申し上げます。サンフロント21懇話会は今年、発足23年を迎えます。これまでも増して東部地域の活性化に貢献し、存在感を高める年にしましょう。

東部では昨秋、当懇話会が支援してきたアスルクラロ沼津のサッカーJ3昇格といううれしいニュースがありました。今後、J2そしてJ1へ向けて支援を続けていきます。わが国のスポーツ産業は2020年の東京五輪・パラリンピック開催に向け、飛躍的な進展が期待されています。スポーツを軸に据えた地域づくり・産業創出は、今後ますます重要性を増していくと思われれます。伊豆市では東京五輪・自転車競技が開催されます。スポーツ人口拡大と地域創生につながる新産業の創出に向けた実効性のある提言活動に取り組みたいと考えます。

米大統領選ではトランプ氏が大方の予想を覆して新大統領となるなど国内外の政治経済情勢は大きく変化しています。そうした中で、県東部が他地域との競争に競り勝つには、地に足の着いた柔軟で独自性にあふれた発想と行動力が求められています。今年も会員の皆さまの結束と一層のご支援をお願いいたします。



## 新年のご挨拶



静岡県知事

川勝 平太

明けましておめでとうございます。

皆様には、お健やかにお正月を迎えられ、心からお慶び申し上げます。

本県の県政の基本理念は「富国徳」です。「住んでよし、訪れてよし」「学んでよし、働いてよし」など、「県民の幸福」の実現を第一にし、「ポスト東京時代」の日本の理想郷“ふじのくに”づくりを目指しています。

県民の皆様の英知を集めて策定した総合計画（現行の「後期アクションプラン」）の8つの重点施策（「大規模地震への備え」「健康寿命日本一の延伸」など）に取り組む一方、昨年からは、世界にはばたく3つの戦略（「スポーツ王国の復活」「地域外交の展開」「農林水産業の競争力の強化」）を推進しています。

平成25年6月に日本のシンボル富士山が世界文化遺産になりました。それを皮切りに、茶草場農法の世界農業遺産、南アルプスのユネスコエコパーク、韮山反射炉の世界文化遺産、天野浩先生のノーベル賞、駿河湾の世界で最も美しい湾クラブ加盟等と相次ぎ、特に昨年は、リオオリンピック・パラリンピックで、本県ゆかりの選手が大活躍し、9選手がメダルを獲得するなど、県民に大きな感動をもたらしました。こうして、本県の世界クラスの地域資源・人材の数は43件になりました。

富士山の世界遺産登録からわずか3年半（43か月）の間に43件です。1か月1件のハイペースです。“ふじのくに”はまさに世界の檜舞台に立ちつつあります。

国際社会は、覇権主義の台頭、宗教対立、テロ、難民の増加、格差の拡大など混迷を深めています。戦後一貫して、世界の人々の憧れを集めたアメリカは、新大統領の誕生で、一国中心主義、経済至上主義が目立ち、アメリカン・ドリームに陰りが見えてきました。

アメリカに代わる憧れの国はどこでしょう。健康寿命が世界一、美しく豊かな国土の景観に恵まれ、「和」と「美」を尊重する価値観を持つ日本だと思えます。海外ではクール・ジャパン（素敵な日本）の声が聞かれるようになり、実際、海外からの観光客・留学生は急増しています。「訪れてよし、学んでよし」の「ジャパニーズ・ドリーム」が語られる前夜のように思います。

ドリーム実現の先頭に立つのは、47都道府県のうち、「ポスト東京時代」の理想郷を築いてきた本県をおいて他にないでしょう。国土の象徴・富士山を擁し、豊かな自然や文化に恵まれた本県は、今や、世界クラスの地域であり、「ジャパニーズ・ドリーム」を実現する条件を備えています。

今年は、後期アクションプランの最終年です。「総括の仕方が出発の仕方を決める」という考えの下、“ふじのくに”づくりの総仕上げに全力を傾注し、次の目標として、国内はもとより海外からも憧れられる「ジャパニーズ・ドリーム」の実現を目指します。御理解と御協力をお願いします。

結びに、今年1年間の皆様の御健勝と御多幸をお祈り申し上げ、新年の御挨拶といたします。



沼津市長

大沼 明穂

新年あけましておめでとうございます。

平成29年の年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

また、貴懇話会は、今年で発足から23年を迎えますが、会員の皆様による長年のご尽力に対し感謝と敬意を表します。

沼津市政の舵取りをさせていただき、2ヵ月余りとなりますが、市長としての責務の重大さを感じ、改めて身の引き締まる思いで新年を迎えました。

振り返ってみますと、市長就任後間もなく、アスルクラロ沼津のJ3参入が決定し、県東部地域初のJリーグチームの誕生となる大変うれしいニュースがありました。アスルクラロの活躍は、多くの人たちに感動と元気を与えてくれましたが、今後も、より一層の応援をまいります。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を控えたこの数年は、国内外からのさらなる誘客を図

る好機と捉えており、これまで以上に周辺市町との連携を深め、広域観光の充実を図ってまいりたいと考えております。

私のスローガンは、「世界一元気な沼津にする」ことであります。

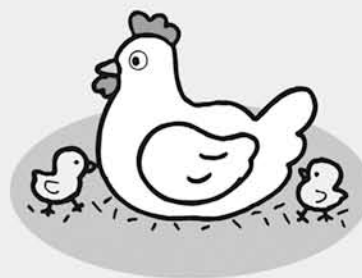
このためには、市民がまちづくりの主役となり、市民の思いを市民と行政が共有していくことが重要であると考えており、まずは、市民との対話を重視し、市民が提案できる場、市民と意見交換をする場を設け、市民がまちづくりへの参加を実感できる機運の醸成を図ってまいります。

また、本市は、風光明媚な自然と首都圏に近い利便性を有する恵まれた都市であると考えております。この恵まれた環境を活かしながら、企業誘致をはじめとする産業振興に取り組むとともに、こども医療費無料化などの福祉施策にも積極的に取り組んでまいります。

さらに、本市が「世界一元気な沼津」への歩みを進める中で、沼津の元気が県東部地域に波及し、東部地域全体が元気になればと考えております。

気持ちを新たに、市長の職務に邁進してまいりますので、皆様の変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。

# われら 酉年生まれ



2017年（平成29年）は、十二支（じゅうにし）十干（じっかん）を組み合わせた、本来の干支（えと）でいうと「丁酉（ひのと・とり）」になります。前回の酉年は60年前の1957年（昭和32年）。この年は、前年からの神武景気を受けて『デラックス』なんていう言葉が流行りました。また、東京がロンドンを抜いて世界一の人口都市となった年です。

酉年は革命の年とも言われるそうです。米国トランプ大統領の就任、イギリスのEUからの脱退などは、その序章のような気がします。そして酉年生まれの方は、常に先の展開を読む力を持っているそうです。また頭の回転が早くバランス感覚も優れているようです。

そんな酉年生まれのサンフロント21懇話会会員の皆様に今年も東部地域が益々発展する事を祈念して、新年への期待や抱負を寄せていただきました。



池田病院  
院長

**池田 誠**

昭和8年4月22日生まれ

新年明けましておめでとうございます。

私は医師になってから「医は仁術」の心もち診療を続けて60年、今なお現役の院長として頑張っております。

今年は地道にコツコツと歩き回る鶏のように、ここ長泉町の地域医療に尽くすべく365日、24時間休みなない診療を続け更に皆様の健康を守る検診の仕事に力を入れていきたいと思っております。

した。また、起業して今年で31年目を迎えます。これも支えてくださった皆様のおかげと感謝しております。

弊社の理念の一つである「出会いを大切に」しながら、微力ですが地域に貢献できますよう、今年も尽力してまいります。



ヒトスギ塾  
会長

**一杉 真城**

昭和20年4月13日生まれ

あけましておめでとうございます。  
還暦が、ゴールと思っておりましたら、もうひとまわりが、あっと言う間でした。  
色々な方に出会え、たくさんのご縁をいただきました。感謝いたします。

今年は、ヒトスギ塾も50周年に向けて、スタートをいたします。

サンフロントが、FRONTIERとなるように、共に、走らせていただきたいと思います。



株式会社シード  
代表取締役

**西島 昭男**

昭和20年4月13日生まれ

あけましておめでとうございます。

終戦の年に生まれ、今年で6回目の年男を迎えま



みしまプラザホテル  
代表取締役

**室伏 勝宏**

昭和20年7月13日生まれ

あけましておめでとうございます。「三島は元  
気ですね」とよく耳にします。

ガーデンシティというコンパクトな街中は確  
かに人通りも多く、賑わっています。

私どもホテルは街に開かれた「出逢いの広場」  
として、今年も楽しい子育て支援企画や、文化事  
業を発信していきます。



三島信用金庫  
理事長

**稲田 精治**

昭和20年11月10日生まれ

新年あけましておめでとうございます。「酉」  
が表す「成熟」は、新たな技術や産業の「革新」  
による競争の激化を予見しているとも言えるでし  
ょう。本年も「地域のホームドクター」として、  
当地域にある“当たり前”を、新しい目で見つめ  
直し、「我が地域の新たな価値」を創出すること  
で地方創生の実現に尽力してまいります。



株式会社太洋社  
代表取締役

**山本 弥之**

昭和20年8月27日生まれ

あけましておめでとうございます。

早いもので72歳の誕生日を迎える年男の新年で  
あります。

12年前に大きな病気にも勝ち、これまでこれた  
のも私に関わり頂いた皆様のおかげと深く感謝し  
ます。

これからは次世代への事業承継の準備と、ボー  
イスカウト活動等地域の多少でも貢献できる様頑  
張っていきたいと思っています。



宗教法人三明寺  
住職

**大嶽 正泰**

昭和20年12月6日生まれ

「6巡目の酉年生まれ」

新聞一面に65歳から75歳以上に高齢者の年齢が  
変わるという記事が掲載されていました。医療の  
進歩や生活環境の改善により5歳から10歳は若返  
っているという判断だそうです。という私は准高  
齢者になり、少し得をした感じです。終活を勉強  
中で、最後まで挑戦する人生でありたいと思っ  
ています。



株式会社桃中軒  
代表取締役

**宇野 統彦**

昭和20年9月2日生まれ

新年あけましておめでとうございます。

早いもので戦後72年となり、私も戦後すぐに生  
まれ72歳となります。今年はトランプアメリカ大  
統領の誕生で戦後続いた日米の関係に、安保や経  
済に大きな変化がある年となるような気がします。

ともあれ本年は日本の発展に希望をもって進ん  
でいけることを願うばかりです。



富士通株式会社沼津工場  
工場長

**阿部 欣成**

昭和32年1月7日生まれ

明けましておめでとうございます。新年早々1  
月7日に還暦を迎えました。

昔ならばこれで人生も終わりという所ですが、  
人生が長くなった現代、微力ながら何か世の中に  
貢献できるような新しいこと、例えばICTを活用  
した地域の活性化といったことにチャレンジして  
いきたいと思っています。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



静岡県工業技術研究所  
沼津工業技術支援センター  
センター長

**加藤 公彦**

昭和32年1月14日生まれ

あけましておめでとうございます。早いもので、本年一月に還暦となります。ここまでこられたのも、関係した皆様のお陰と感謝申し上げます。還暦を節目として仕事や私生活を見直し、これからは、今までやりたくてもやれなかったことを中心に、生活しようと思っております。



株式会社加藤工務店  
代表取締役

**加藤 修一**

昭和32年5月19日生まれ

60歳になることはいろんな意味で考えさせられます。人生の最終章に入るからでしょう。悔いのない人生をおくる為には、やはり何事も前向きにチャレンジしていくしかないのかもしれない。未来を描き、創造していく。地域の未来を明るいものにしていくことに少しでも貢献できるよう努めてまいりたいと思っています。



石川建材工業株式会社  
代表取締役

**石川雄一郎**

昭和32年3月3日生まれ

明けましておめでとうございます。

「今ここで頑張らずにいつ頑張る」を座右の銘にひたすら人生を進んで来ました。「馬上少年過…」漢詩が最近頭をよぎります。気が付けば早いもので今年5回目の年男を迎えました。これからは弊社指針「感謝・サービス」の精神を持ち続けて多くの人たちから支えて頂いた事に感謝申し上げ少しでも恩返し出来る様頑張っていきたいと思っております。



静岡県沼津土木事務所  
所長

**森田 尚孝**

昭和32年5月21日生まれ

新年あけましておめでとうございます。これまで皆様方にはお世話になり、大変感謝しております。この歳までに個人として社会貢献は??無に等しいのが現実です。定年も間近、第二の人生ではグローバルシチズンとして社会の発展に寄与できるよう、新たな分野の知識を習得し、更には行動力を高めていきたいと考えております。



伊豆の国市県議会議員

**土屋 源由**

昭和32年4月25日生まれ

新年あけましておめでとうございます。早いもので「小生意気な若僧」を通して来た私が、還暦を迎えるとは思ってもよらぬ一大事です。町議を振り出しに18年もの歳月がたち、少しは地域の役に立てたのか考えてしまいます。これからも「初心を忘れず」お世話になった皆様に恩返しを兼ね、議員活動に励んでまいります。



伊豆市県議会議員

**野田 治久**

昭和32年5月29日生まれ

新年あけましておめでとうございます。2019年2月世界選手権、2020年東京五輪が伊豆ペロドームで開催されます。課題山積ですが、伊豆を世界にアピールする絶好のチャンス到来です。大会の成功と伊豆の未来のために地域一体、官民一丸となり、今年は飛躍の第一歩を踏み出しましょう。





マックスバリュ東海株式会社  
代表取締役社長

**神尾 啓治**

昭和32年7月11日生まれ

新年あけましておめでとうございます。

今後は、社会環境等の更なる複雑化が予想されますが、事業運営の原点である地域を大切に、小さな声にも耳を傾け、地域密着経営の推進に更なる1歩を踏み出すとともに、より良い地域づくりと豊かな暮らしの創造への継続的な貢献が果たせるよう努めてまいります。



有限会社アラリシップビルダーズ  
取締役

**森 久人**

昭和32年10月4日生まれ

新年あけましておめでとうございます。

5回目の年男を迎え、我が社も創業17年目となりました。

これまで支えて下さった多くの皆様に感謝を申し上げるとともに、今年も皆様に安全安心で快適なマリレジャーを楽しんでいただきますよう、また微力ながら西伊豆町の活性化の一助となれるようマリレナスタッフ共々、益々精進して参ります。



株式会社太平エンジニアリング  
沼津支店  
執行役員支店長

**山本 信行**

昭和32年9月6日生まれ

あけましておめでとうございます。30歳代の頃、世間の人達に一人前に見られたくて早く40歳代になりたいと思って過ごしていたら、あっという間に60歳です。この先は40代 30代に戻れたら良いなどと思って過ごしていく事になりそうです。



静岡県富士財務事務所  
所長

**鈴木 敬志**

昭和32年10月8日生まれ

あけましておめでとうございます。

県に奉職して37年、早いもので還暦の年を迎えました。これまで多くの皆様に支えていただき、今があることを感謝しております。

酉年は商売繁盛につながる年とのこと、皆様にとって輝かしい1年になりますことを祈念し、また、税に携わる者として適正で公平な税務行政の推進に努めてまいります。



木内建設株式会社沼津支店  
支店長

**土屋 隆男**

昭和32年10月16日生まれ

新年明けましておめでとうございます。

早いもので、本年10月に還暦を迎えます。これまで支えてくださった多くの皆様方、そして家族の協力に大変感謝をしております。

還暦を期に、「初心忘れるべからず。」という諺にもあるように、一度、初心にかえって、自分の人生を見つめ直し、輝くものにしてゆきたいと考えております。



(株)静岡銀行  
常務執行役員東部カンパニー長

**常峰 啓史**

昭和32年11月3日生まれ

新年あけましておめでとうございます。

2017年は、予測困難で楽観シナリオが描けない変化の激しい年となりそうです。

こういう年ほど原点に立ち返り、基本を重視して仕事に取り組みたいと思います。変化に対して傍観することなく先見性を持って挑戦し、地域社会、地域経済に貢献して行くつもりです。

## ◎首相、秋以降の解散模索 民進は対立軸に腐心



共同通信社 政治部長

小渕 敏郎

2017年の政局は、次期衆院選の時期が焦点になる。安倍晋三首相は早期解散を見送り、17年度予算案の3月までの成立に全力を挙げる意向を示しており、夏の東京都議選をはさんだ秋以降の解散を模索するとみられる。「経済最優先」のアピールと積極的な首脳外交の展開で内閣の高支持率を維持し、与党3分の2勢力の継続を狙う。民進党は野党共闘の構築に向けて政策のすりあわせを急ぐが、アベノミクスへの対立軸づくりに腐心しているのが実情だ。

首相にとって喫緊の課題は米新政権への対応となる。トランプ氏の大統領就任後、速やかに訪米し、首脳会談で同盟強化を確認したい考え。自由貿易の重要性についても理解を促す。ただ環太平洋連携協定（TPP）脱退を唱えるトランプ氏の翻意は見通せない。TPPを中核に据えるアベノミクスには危うさがつきまとう。中国、韓国との関係改善でも難しいかじ取りを迫られそうだ。

1月20日召集の通常国会では、天皇陛下の退位に関する法整備も重要テーマ。政府は陸下一代限りの特別法での対応を想定しているが、民進党は恒久的な皇室典範改正を求めている。政府はテロ対策強化に向けて「共謀罪」を新設する組織犯罪処罰法改正案や、残業規制に重点を置く「働き方改革」の関連法案も提出する方針で、衆院選をにらんだ与野党間の激しい論戦が予想される。

衆院小選挙区定数の「0増6減」と「1票の格差」を是正するために選挙区の区割りを改定する公選法改正案の成立も見込まれる。首相が1票格差を巡る「違憲状態の解消」を大義に掲げた秋解散に踏み切る場合には、事前の内閣改造で選挙向けシフトを敷く可能性も取り沙汰される。

民進党の蓮舫代表は党勢回復への道筋を描いているとは言い難い。野党共闘では共通政策づくりを先行させた上で小選挙区での競合解消を目指すのが、連合は共産党との連携に反発している。

## ◎高まる不確実性、 トランプノミクスが左右



時事通信社 経済部長

佐藤 亮

今年の日本、世界経済はまさにトランプ米大統領が打ち出す経済政策「トランプノミクス」によって大きく翻弄（ほんろう）される。米新政権が採る経済のみならず、外交、安全保障、内政に関するあらゆる政策が、地政学リスク誘発の可能性もはらみながら、内外経済に重大な影響を及ぼすと見ておく必要がある。

米国経済はトランプ氏が表明する減税、インフラ投資など財政拡張政策により短期的には浮揚効果が見込まれる。一方で、米連邦準備制度理事会（FRB）の金融引き締めが想定以上に進む可能性もあり、その場合、ドル高・円安、長期金利上昇を誘発し、米輸出産業の減衰と投資の減少を招く。環太平洋連携協定（TPP）離脱や北米自由貿易協定（NAFTA）修正など保護主義的政策が実行されれば、世界貿易縮小を引き起こすのは確実で、中期的に米経済の不透明さは拭えない。

目を欧州経済に転ずると、昨年の英国の欧州連合（EU）離脱を受け、反EUの政治潮流が域内経済にどう影響するか注目点だ。フランス大統領選が春に、ドイツ連邦議会選挙が秋に予定されており、結果次第では欧州経済への悪影響を懸念し、欧州銀行セクターの経営不安問題が再発する恐れもある。

中国経済は6%台で緩やかな減速を続けているが、企業債務の累増、住宅バブルの危険性を指摘する向きも依然として少なくない。トランプ氏の対中政策の展開によっても中国経済への悪影響も出てくるだろう。

こうした中、「アベノミクス」5年目に入る日本経済は、総じて安定さを保っているとは言え、米金利高に伴う長期金利上昇が懸念されるほか、自国産業保護を訴えるトランプ氏の主張を考えれば、ドル安・円高を十分に想定しておく必要がある。世界的な反グローバル主義の潮流を前に、日本経済にとっても不確実性が高い1年になるだろう。

2016年7月28日開催

会場／修善寺温泉 桂川

# 伊豆地区分科会

## 第22回 伊豆地区分科会 静岡新聞 SBS



「サンフロント21懇話会」(代表幹事・岡野光喜スルガ銀行会長)は7月28日、第22回伊豆地区分科会を伊豆市修善寺の旅館桂川で開いた。官民の会員ら約120人が参加し、文化庁の日本遺産登録を目指す「伊豆の旅館文化と文豪遺産」について基調講演とパネル討論を行い、登録の実現を足掛かりに地域創生、活性化に結び付けていく必要性を改めて確認した。

主催者を代表して北村敏廣静岡新聞社専務は「伊豆ゆかりの文豪と作品には温泉旅館が深くかかわっている。伊豆が元気になる提案をいただきたい」とあいさつした。懇話会代表の伊東哲夫運営委員長は「日本遺産登録の推進は今年度の重要な活動テーマ。必ずや伊豆の再生につながる」と強調した。

基調講演の講師は作家で伊豆の文学や全国の温泉などに詳しい嵐山光三郎氏(浜松市出身)。「文学と温泉の蜜月関係」と題して川端康成の「伊豆の踊子」を取り上げ、川端と伊豆の自然や温泉、作家らとのかかわりなどを解説。「伊豆は温泉や宿の良さだけでなく、そこに住む人々の息遣い、自然の美しさなどが一体となったワンダーランドだ。ぜひ日本遺産に登録されることを望んでいる」とエールを送った。

「伊豆の旅館文化と文豪遺産」がテーマのパネル討論には地元の菊地豊伊豆市長、「伊豆の踊子」の舞台となった河津町湯ヶ野温泉福田家の女将・稲穂照子氏、NPO法人全国街道交流会議専務理事の古賀方子氏が登壇。最近の観光動向や温泉旅館とゆかりの文学との触れ合い、日本遺産登録の事例などを紹介し、地域の宝物を磨いて独自のストーリーを探る方策などを探った。コーディネーターの中山勝企業経営研究所常務理事は「日本遺産登録は目的ではなく手段。地域の人々を巻き込んで伊豆を光り輝かせる方策を考え、実現に努力していく」と結んだ。



## 主 催 者 代 表 挨 拶

静岡新聞社代表取締役専務

北 村 敏 廣

暑さの中、川のせせらぎの音がうれしい時期となりました。伊豆地区分科会に多くの方々のご来場をいただき、誠にありがとうございます。サンフロント21懇話会の活動は22年目を迎えましたが、こうして活動を継続できますのも会員の皆様のご支援のたまものであります。改めて感謝申し上げるとともに、一段のご協力をお願いいたします。

本日の分科会テーマは伊豆の旅館文化と文豪遺産です。伊豆東部地区には富士山、韮山反射炉と世界遺産が二つあります。加えて見事な景観を作り出している山々や川、ノーベル賞作家川端康成先生の「伊豆の踊子」をはじめとする数々の名著を生み出した温泉など世界に誇るべき地域資源が数多くあります。

基調講演の講師には作家で伊豆の文学、全国の温泉地に詳しい嵐山光三郎先生をお迎えしました。パネル討論を通じて伊豆ゆかりの文豪とその作品をどうしたら地域創生、活性化に結び付けられるか。伊豆が元気になり、世界に輝くための可能性を探り、日本遺産登録を目指してまいりたいと思います。

## 懇 話 会 代 表 挨 拶

サンフロント21懇話会運営委員長(伊東法律事務所所長)

伊 東 哲 夫

サンフロント21懇話会の会員の皆様には懇話会の運営に当たり、絶大なご協力とご支援を賜っていることに厚く御礼申し上げます。

伊豆地区は自然、温泉など文化財の宝庫と言われています。伊豆の歴史の中には様々な声があります。この声の中にある物語を単に保全するということではなく、活性化することによって日本遺産の登録に結びつけようというのが今年度の懇話会活動の最大テーマになっています。このテーマが実現することにより、伊豆の創生は間違いないものになるのではないかと確信を持って活動を進めてまいります。

ご承知のように伊豆地区は川端康成先生、井上靖先生、若山牧水先生など枚挙にいとまがないほどの文学者を育てています。嵐山光三郎先生のご講演と、伊豆の文豪と老舗旅館に深いかわりを持った方々によるパネル討論を通じて実りある分科会となり、日本遺産登録という私たちの活動の一助になればと幸いと願っております。

## 基調講演

# 「文学と温泉の蜜月関係」

講師：作家

嵐山光三郎氏



### 川端康成の生い立ちと「伊豆の踊子」

16歳で天涯孤独、精神の救済求め伊豆へ

文化遺産というのは単に温泉の良さ、あるいは宿の良さというものだけでなく、温泉の良さとともに、そこに住んでいる人の息遣い、自然の美しさなどもろもろのものが全部合わさる一つのワンダーランドとしてあるということです。川端康成の小説「伊豆の踊子」は本や映画で皆さんよくご存じだと思いますが、もう一度読み直してみてください。エッと思うほどすごい作品ですし、川端康成も日本の作家の中ではずば抜けた存在です。その中でも「伊豆の踊子」は素晴らしい作品です。

川端は大阪市の生まれで2歳の時に父親が死に、3歳で母親が亡くなり、母方のおばあちゃんに引き取られました。姉がいたのですがその姉も死に、おばあちゃんも死に、開業医だったおじいちゃんも死に、16歳で天涯孤独となりました。19歳で東京の一高に入学しました。私が最初に読んだ川端作品は「16歳の日記」（のちに「17歳の日記」と改題）で、16歳の時に読んで世の中にはこんな経験をした人がいるのかと衝撃を受けました。

一高生の20歳（大正7年）の時、初めて伊豆を旅します。旅芸人の一座と出会って道連れとなり、修善寺から下田まで1週間の旅をします。それを記憶にとどめ、小説「伊豆の踊子」として書いたのは9年後です。なぜ伊豆に来たかということ、自分は家庭的に不幸だからということがあって寮でも他人とそりが合わず、いわば精神の救済で来たわけです。

### 今東光の家に下宿、多彩な交流を育む

大学は東大に進み、今東光の家に下宿しました。今東光と言えば中尊寺の大僧正をやり、比叡山で修行して荒くれ乱暴爺で知られ、瀬戸内寂聴の剃髪をしたことでも有名です。父親が外国航路の船長だったこともあって小学校だけでも6回ぐらい転校しています。ものすごい暴れん坊で、行く先々でいじめられたりして、手ぬぐいの中に石を詰め相手の番長を殴って中学を3回も退学になっています。今東光の弟は今日出海で初代の文化庁長官を務め、川端のノーベル文学賞受賞に尽力しています。下宿には面白いメンバーがたくさんいて、今東光は学生でもないのに一緒に通って偉い先生の講義を聞いたりして、菊池寛や川端、横光利一らと雑誌「文藝春秋」を始めるわけです。

今東光の回想によると、正月になると下宿人はそれぞれの国に帰るけれど、川端は故郷がないから一人ぼつんと残り、今東光の家で正月の雑煮を食べていました。有名な話ですが、「伊豆の踊子」で流行作家になった時、ベントでやってきて運転手にまで雑煮を食わせろと言ったそうです。

### 旅芸人一座と出会い、10年通い詰める

学生時代の川端は陰隠滅滅たる思いを抱えて伊豆にやって来ます。踊子に出会って滞在し、風景や茶屋の人々に癒されて、以降ほぼ9年間にわたり伊豆に通い詰めました。大学の授業に出ないでよく来たなあと思いますが、多少の仕送りはあったようです。それと当時の伊豆の温泉は学生たちが泊まれるぐらい安かった。大正13年ごろ川端

は湯ヶ島の湯本館に泊まりますが、駒込界隈の下宿より安かったようです。それから湯ヶ野の福田家。この2つは小説と同じまま残っています。これはとても貴重なことで、旧天城街道そのものが物語になっているということです。

### 一気に物語の世界に引き込む書き出し

道がつづら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたと思ふ頃、雨脚が杉の密林を白く染めながら、すさまじい早さで麓から私を追ってきた。

「雨脚が杉の密林を白く染めながら…」なんていう文章を書ける人いないですよ。すごい文章です。最初からドラマチックで絵になります。

「私は二十歳。高等学校の制帽をかぶり、紺飛白の着物に袴をはき、学生かばんを肩にかけていた。」

これって変ですね。紺飛白を着て一高の制帽をかぶり学生かばんを肩にかけているなんて。一つの奇態ですが、ここでエッと思わせて一。

一人伊豆の旅に出てから四日目のことだった。修善寺温泉に一夜泊り、湯ヶ島温泉に二泊泊り、そして朴齒の高下駄で天城を登って来たのだつた。重なり合った山々や原生林や深い溪谷の秋に見惚れながらも、私は一つの期待に胸をときめかして道を急いでゐるのだつた。そのうちに大粒の雨が私を打ち始めた。

これで一気にドラマに引き込まれます。そこで峠の北口の茶屋で旅芸人の一行と会う。一行の踊子が自分の座布団を外して裏返しにして差し出すんですよ。それまで2回会っているからドキドキしちゃうんだけど、言うことがなくて興奮してしまって、煙草を取り出すと踊子が煙草盆をスッと引き寄せてくれた。最初の1ページで物語にグーンと引き込みます。

道がつづら折りになる風景、天城峠、雨脚が杉の密林を……これでどういうところかを示すわけです。踊子には今まで2回会ったことがあって1回目は修善寺の湯川橋の近く、2回目は湯ヶ島の

夜、で次は天城を越えて湯ヶ野温泉に行けばまた会えるだろうと急いで来たところがロマンチックなだけでなく、川端という人はリアリストであって、もっと言えば辛抱強いニヒリストなんです。自分は育ちが不幸だったから人を信じることができない。世界と和解をしたいために伊豆に来たという。伊豆はそのための装置なんですね。

私は敷居際に立って躊躇した。水死人のやうに全人蒼ぶくれの爺さんが樋端にあぐらをかいてゐるのだ。瞳まで黄色く腐つたやうな眼を物憂げに私の方へ向けた。身の周りに古手紙や紙袋の山を築いて、その紙屑のなかに埋もれてゐると言つてもよかつた。到底生物と思へない山の怪奇を眺めたまま、私は棒立ちになつてゐた。

かわいい憧れの踊子を登場させたと思ったら、こんな眼が腐った水死人のような茶屋の親父が出てきます。雨が治まって旅芸人が出立しようとしたので、「あの芸人たちは今夜どこに泊まるんでしょう、湯ヶ野に泊まるんでしょうか」と聞くと、女将は「あんな者、どこで泊まるやら分かりませんよ、お客があればどこにでも泊まるんですよ」と軽蔑を含んだ言葉を返す。差別表現ですね。下手をすると本当は書き直さなければならないところ、川端康成なら許されるということもあるでしょう。ギリギリのところまで旅芸人が差別の対象だということが分かります。そして旅芸人たちと一緒に過ごしていくと、天城峠の今は国の重要文化財になっているトンネルに差し掛かります。

### 夢の世界開く天城トンネル、 「雪国」も同じ構造

暗いトンネルに入ると、冷たい雫がぼたぼた落ちてゐた。南伊豆への出口が前方に小さく明るんでゐた。

トンネルと言えば皆さんも思い出すでしょう？「雪国」の冒頭にも出てきます。「国境の長いトンネルを越えると、そこは雪国だった。夜の底が白くなった」と。「夜の底が白くなった」なんて表現書けませんよ。トンネルを越えると自分が思う夢の世界があるという。同じ構造なんです。川



端康成にとってトンネルは重要な意味があるんですね。天城トンネルに行くと確かにぼたぼたと雫が落ちる。その次の文章がすごいんです。

トンネルの出口から白塗りの柵に片側を縫はれた峠道が稲妻のやうに流れてゐた。この模型のやうな展望の裾の方に藝人たちの姿が見えた。

すごいでしょう？トンネルの先に針で縫ったよな峠道が流れている…こんな表現を100年前に20歳かそこらの青年が書くんです。こんな読んだら行きたいなって皆思いますよ。

### 純情恋物語ではなく 歪んだ心の救済願う

川端康成が描いたのは踊子との恋だけじゃないんです。もちろん踊子に対するほのかな恋もあるのですが、トンネル、茶屋のおっかない爺さん、自然、それらの描写がものすごく精密に書かれている。主人公の「私」は一旦、一行を追い越し、峠の茶屋で一緒だったということが分かって一緒に歩いて福田家に着きます。

皆と一緒に宿屋の二階に上つて荷物を下した。畳も襖も古びて汚なかった。踊子が下から茶を運んで来た。私の前に坐ると、眞紅になりながら手をぶるぶる篩はせるので茶碗が茶托から落ちかかり、落とすまいと畳に置く拍子に茶をこぼしてしまつた。餘りにひどいにはかみやうなので、私はあつけにとられた。

その様子を見た四十女が「いやらしい、この子は色気づいたんだよ」と眉をひそめる。次いで有名なシーンですが、旅芸人の男が帰りがけに庭から挨拶するので、金包みを投げると、男は「こんなことをなさっちゃいけません」と包みを抛り返す。旅芸人の一種の意地ですね。普通なら貰うわけです。だけど相手はまだ学生でしょう。金包みは藁屋根の上に落ち、「私」がもう一度投げると男は持って帰った。

その晩は「踊子の今夜が汚れるのであろうかと悩ましかった」と続きます。つまり彼女が17歳ぐらいだと思っているから、今夜客を取らされて売

春させられるだろうと想像するんですね。ところが翌朝、共同湯で見かけた裸体の彼女は子供だった。実際は14歳だったんです。

女たちは「お遊びにいらっしやいまし」と言うのだけれども、食事や宴会が終わったら芸人に「食べに來い」と言うのはやばいシーンですよ。それから木賃宿に間借りをしている鳥屋の男が踊子の肩を叩くシーンがあって、四十女が「こら、この子に触っておくれでないよ、生娘なんだからね」と怒る。踊子は無邪気に鳥屋に「おじさん、水戸黄門漫遊記を読んで」とせがみます。いいですよ。まだ14歳の子供だというのが分かる。で、「私」が水戸黄門漫遊記を読んでやると、踊子は顔を寄せて目をキラキラさせ、瞬きもせず一心に私の顔を見つめる。このシーンもものすごいですよね。

川端は自分のことをこう表現しています。

二十歳の私は自分の性質が孤児根性で歪んでゐると厳しい反省を重ね、その息苦しい憂鬱に耐へ切れないで伊豆の旅に出て來てゐるのだった。だから、世間尋常の意味で自分がいい人に見えることは、言ひやうなく有難いのだった。

(中略)

途中、ところどころの村の入口に立札があつた。

一物乞ひ旅藝人村に入るべからず。

「伊豆の踊子」というのはただの純情恋物語ではなく、風景、時代背景、差別、孤児であった自分が何か救われたいという思い等がすべて込められている。ラストシーンで踊子たちは伊東の方に向かい、「私」は船に乗って東京に帰るんですが、船上で「私はどんなに親切にされても、それを大変自然に受け入れられるような美しい空虚な気持ちだった」と、つまりここ伊豆で川端康成は救われたんですね。「伊豆の踊子」に描かれた踊子を取り巻く伊豆の温泉や人々が、川端康成の心をとらえたのです。

### 川端の温泉隨筆

伊豆をべた褒め、温泉の匂いが好き

川端康成は同じころ「湯ヶ島温泉」など伊豆の

旅のエッセーを書いています。まるで伊豆の宣伝パンフレットのようにべた褒めに書いているんですよ。一部を紹介すると。

名物はわさびと椎茸だ。湯ヶ島のわさびは最上品で東京の一流店が出る。わさびは水のきれいな湿地、わさび沢に出来るのがいい。乾いた土地で作ったのは、岡わさびといって味が悪い。ところが人間の舌が鈍感になってしまって、わさびを味わい分ける人が少なくなった。岡わさびでも満足するようになった。

わさびの味が分かるものがないとケチをつけています。それから

湯ヶ島は宮内省の天城の御猟で名高い。この冬は鹿が50頭程取れた。去年の暮、土地の猟師が四五人がかりで、村の河原に鹿をしとめるところを見物した。また、松竹の蒲田撮影所からよくこの地へロケーションに来る。私の見たのは、梅村容子の「水車小屋」だった。落合楼の前の河原で、梅村容子が鎌で首を切り、三村千代子が岩の上から流れへざぶんと着物のまま飛び込んだ。

川端康成は映画に興味があったんですね。彼が書いた「狂つた一頁」というシナリオを衣笠貞之助監督が映画にしています。ですから彼の作品は非常に絵画的です。巻頭が「国境の長いトンネルを越えるとそこは雪国だった、夜の底は白い…」。

彼は画家になりたかったので、非常にビジュアル的ですね。みんな最初の一行に苦労するから記憶に残りやすい。ところが名文家で知られる三島由紀夫の最初の一行は皆覚えていないでしょう？よほどの人しか覚えていない。ここが川端康成と三島由紀夫の差ですよ。川端康成がどれほどすごいのか。

「伊豆の踊子」は何度も映画化されましたが、シナリオにするときビジュアル＝絵画的なシーンにしやすいですね。

私は温泉にひたるのが何より楽しみだ。一生温泉場から温泉場へ渡り歩いて暮らしたいと思っている。それはまだ体の強くない私に長命を保たせることになるかもしれないし。

湯ヶ島も長命者が多いそうだ。私はこの地へ七年前から、毎年二度か三度は欠かさず来る。大正十三年は殆どこの地で送った。

七年前、一高生の私が初めてこの地に来た夜、美しい旅の踊子がこの宿へ踊りに来た。翌日、天城峠の茶屋でその踊子に会った。そして南伊豆を下田まで一週間程、旅芸人の道連れにしてもらって旅をした。

また温泉に来るときの気持ちについては

時々孤独の寂しさがやって来る。眼をつぶって、どてらの袖を噛む。と、湯の匂いがする。私は温泉の匂いが好きだ。今はこの土地にも慣れてしまって何ともないが、以前は乗り物を捨て坂を下って宿に近づき湯の匂いを感じると涙がこぼれそうになり、宿の着物に替えると袖に鼻をつけてこの匂いを吸い込んだものだ。

すごいですよね。嗅いで噛むくらい温泉の匂いが好きだという。

夏いろんな友だちがこの宿に私を訪ねてきた。そして誰も彼も扇を置き忘れていった。それらの扇は私の部屋の隅でほんのり黴臭くなっている。

冬の外套、冬の着物、セルなどが乱れ籠の中ですっかりかびていた。昨日宿の者に干してもらった。冬の帽子にもかびがはえている。

私は冬の装いでこの温泉に来たのだ。初夏東京に戻るつもりで、質屋からわざわざセルを送らせたが、一度も着ずじまいだった。真夏の単衣を拵えたが矢張り袖を通したことがない。近くの温泉、修善寺や吉奈に行くにも宿屋の浴衣のままだ。今また東京へ初秋の単衣を頼んでやった。これを着て帰りたいと思っている。

## 若手文士が集った湯ヶ島

尾崎士郎と宇野千代、  
横光利一、梶井基次郎も

皆さん、村田英雄の歌「やると思えば♪」で知られる「人生劇場」を書いた大流行作家の尾崎士

郎はご存知ですよ。妻は宇野千代で、前夫の東大教授と北海道で暮らしていましたが、「こんな土地いやだわ」と夫を置き去りにして東京に出て来てしまった最高にいい女なんです。中央公論の小説賞で一等賞が宇野千代、二等が尾崎士郎、選外が横光利一というメンバーが伊豆に一緒に行くわけです。

天城倶楽部というトタン張りの芝居小屋がこの村にある。私はそこでいろんなものを見た。軽業が一番面白かった。やりそこなえば生命を失うような芸当を見るのが、私は好きだ。どんな女や子供でもそんな芸当をやる時には精神を統一した真剣な顔をする。その顔から意外な美しさが輝き出す。そして、見ている私も精神に緊張を覚える。

安来節がかかった時には尾崎君と宇野千代とが来ていたが、宇野氏はこんなものを聞くのは初めてだと言って面白かった。

宇野千代は6年後に尾崎と別れ、フランス帰りの画家東郷青児と再婚するのですが、尾崎と宇野千代が湯ヶ島で夫婦仲が悪くなって別れようとなったいきさつを尾崎が短編小説で書いています。今年岩波文庫から短編集が出ました。

ついでに言えば、梶井基次郎も湯ヶ島に来ています。「桜の樹の下には死体が埋まっている」と書いた梶井基次郎ですね。川端康成より2歳年下の東大の後輩で、当時は全然売れていない作家でした。川端が「伊豆の踊子」を書いている時、校正を手伝う助手として湯本館に来るのですが、あんぼんだんだから、最初、落合楼という一番高い宿を予約してしまうんです。で「落合楼は北原白秋とかお金持ちが泊まる場所でお前が来る場所じゃない」と川端康成が斡旋して一番安い湯川屋に来る。湯川屋に行くと梶井基次郎の関連品が展示してあります。

梶井基次郎は困ったことに湯ヶ島で宇野千代に惚れてしまいます。人妻に惚れるなど言いたいのですが、彼も若いので。宇野千代は歴戦の女ですから、青白い売れてもいない金のない作家は相手にしないわと無視し、悲観した梶井基次郎は川に飛び込み結核を悪化させてしまいます。「檸檬」という代表作を残しましたが、31歳で亡くなりました。

梶井基次郎も「温泉」という話を湯ヶ島で書いています。湯川屋の地下には熱い地下牢があるというミステリアスな内容で、温泉が湧く溪谷の下は水量が増すと水害が起きやすいのでコンクリートで防いでいて、それが地下牢のように見えるのです。一つは村人用、一つは宿泊用で、宿泊用の部屋に泊まると、隣から男女がいちゃついているような声がする。けしからんと思いつつ覗いてみると誰もいない。そんな面白い小説も書いています。

湯ヶ島には川端康成を訪ねて尾崎夫妻や横光利一もやって来ます。川端は「伊豆の踊子」を書く前、何で飯を食っていたかと言えば批評家です。小林秀雄のような存在でした。非常に厳密な批評を書いていたんですね。だから湯ヶ島に滞在する川端のもとにも文士がずらっとやってきて、川端はお前はあっちに泊まれ、こっちに泊まれと斡旋するんです。

湯ヶ島にはそれとは別に井上靖さんの実家がありますね。川端康成とはかけ離れた違うグループですが、井上さんは元新聞記者で温厚な人です。編集者としてお訪ねすると、紅茶を出してくれるのでウイスキーで割ってあるので、一杯飲むとべろべろに酔っ払ってしまいます。実に愉快な人でした。

井上靖はその後、金沢や京都に行くんですが、学生の頃はいわゆる小説コンクール荒らしでした。毎日新聞社に入りましたが、サンデー毎日のコンクールで一等賞になって、それが縁で小説家になります。時代も経緯も川端さんとは違います。

### 他の温泉場にはない装置や人情たたる

川端康成は伊豆のことをこうも書いています。

ちょっと美しい都会の女なぞが来ると、宿屋の女中は直ぐに「とてもいい方ですね」と言います。伊豆は生活が割合楽なようです。ですから関東の田舎にありがちなあらっぼさやとげとげしさがありません。そして「東京へ、東京へ」というあこがれも娘たちの間にそんなに強くはないようです。女工なぞになって他国へ働きに出るようなことも滅多にないのでしょう。温泉が沢山ありますので、東京の人もずいぶん入り込んでいますが、案外その



影響を受けないようです。その言葉が単純な響きを持っています。これはいい感じですよ。

私が今いる湯ヶ島温泉は小さい村ですが、男相手の女がいる家が二三軒あります。勿論、土地の女ではありません。ところが、そういう女と話をしている村の女房や娘が面白いのです。

雨の日に乗合自動車から女が下ります。菓子屋の店へ走りこんで、買い物に来ている村の娘の肩をとんと叩きます。娘は実にいい微笑を返します。そして、両方ともいかにも何気ない顔で立ち話をしています。

川端康成は伊豆の温泉に救済されたんですね。温泉の質がいいのはもちろん第一ですが、温泉場の装置、自然が合わさっていいわけです。日本遺産、世界遺産レベルのものが旧天城街道にあるのです。ほかの土地を悪くは言いたくありませんが、川端の「雪国」の舞台は、今は駅前に分譲マンションがズラーッと建ち、賃貸物件になってもガラガラですよ。東京の資本が入って滅茶苦茶なものを造ると、せっかくいい文学作品があっても無残な形になるんです。

福田家さんや湯本館がそのままの形で残されているのは素晴らしいことで、それだけでなく、まちが昔の風情を残している。だからこそ人が飽きずに集まって来る。尾崎紅葉や幸田露伴に代表されるように日本の文学は全部温泉にかかわりがあります。尾崎紅葉はご承知の通り熱海で、幸田露伴も日本中を歩いて回っている。なぜ作家が温泉を好むかと言えば、東京にない静かな環境が一番ですね。また執筆で疲れた体を温泉が癒してくれる。これは私も長い作品を書くとき経験しています。

## 作家の温泉場滞在の理由

### 近代文学史は温泉史に通じる

今は一カ月置いてくれる宿なんて日本中どこにもありませんね。料理はどうでもいいから一カ月置いてくれと頼んでも東北の山の家ぐらいでしょうか。静岡の名湯といえども一カ月も逗留されたら旅館も困るでしょう。

尾崎紅葉、幸田露伴に始まった日本近代文学史は日本近代温泉史と言ってもいいでしょう。作家

が温泉に行く理由は①静かな環境②執筆で疲れた脳を癒す③いろっぼい芸者と懇ろになる④流浪派⑤女性との隠れ派⑥享楽⑦治療⑧逃亡⑨営業一などを挙げることができます。この温泉との関係をランキングにすれば、温泉に長期滞在して作品を書く▽治療や疎開▽作家が泊まって旅行記を書く▽宿帳に作家の著名がある（だけ）一となるでしょう。

坂口安吾は伊東温泉で治療代わりに温湯で2時間3時間浸かっています。要するにヒロポンと睡眠薬を抜くための治療です。芸者と懇ろになる色っぼい作家もいます。「雪国」が一つの例ですね。

「雪国」の「指が覚えている」という表現を、丹羽文雄というその手の小説を書く名人が「女の記憶を指が覚えているなんていやらしいよな」と言うので「丹羽先生が書く方がもっといやらしいですよ」と返すと「俺は川端康成のような表現はかけないよ」とおっしゃっていました。

流浪派には与謝野晶子や島崎藤村、芥川龍之介がいます。芥川は修善寺の独鈷の湯を舞台にした「温泉だより」を書いています。独鈷の湯で死んだ大工の話で修善寺の描写は一切出てきません。大工が死ぬ前に解剖用に体を売り、町の女に金を工面する話で死ぬ前に体をきれいにしないといけないから独鈷の湯に浸かるといふ律儀な男の話です。温泉場にしたら迷惑な話ですが、作家はいいことも悪いことも書いています。

## 温泉の2大文豪は川端と漱石

日本文学で温泉の2大文豪といったら夏目漱石と川端康成でしょう。漱石は「坊ちゃん」の道後温泉。「坊ちゃん団子」とか「坊ちゃん饅頭」とかいう名物がずらっと並んでいる。あれはあれでなかなかいいものですね。川端は「伊豆の踊子」。この2つがダントツですね。

しかし漱石は客として滞在したわけではなく、松山中学に教員として赴任して1年ちょっとで熊本・五高に移ります。熊本にも温泉があって温泉の話を書いています。その後英国に留学し、神経衰弱になって帰国し、東大の教授になって頭がおかしくなって、朝日新聞社に入って49歳で小説家になります。伊豆にも来ており、修善寺の菊屋で血を吐いたので菊屋さんにとってはめでたくない話ですが、菊屋には彼の弟子で松根東洋城とい

う旧宮家出身の宮内庁職員の紹介で来ました。吐血した後、結局2カ月間逗留して養生し、回復します。菊屋さんの2階にある「大患の間」というところに滞在していたのですが、無事治って宿を出るとき、「別るや夢一筋の天の川」と詠んでいます。

岡本綺堂の「修禪寺物語」は市川左団次のために書いた戯曲です。新しいところでは渡辺淳一の「失楽園」は「あさば」で書いていますね。渡辺淳一さんも亡くなりました。修善寺にはもっといろいろあります。

### 伊豆の温泉が川端ワールドを作り、 ルートを残す

湯ヶ島や修善寺だけでなく、河津七滝や湯ヶ野などを加えて、バスと徒歩で3泊4日ぐらいで自然と一体となって日本文学が研鑽された旅、なんていう企画もいいですね。不思議なもので作家が逗留した宿に泊まると、どんな人でもなんとなく作家になったような気分になるんですよ。俳句かなんか書く気持ちになったりしますから。

川端さんが好きなのは海よりも山の温泉場で、総合的な力があるということでしょうか。そういう場所で作家が言葉を紡いだ。川端の場合は伊豆という装置—風景や人間や光が川端康成という世界的な作家を作った。同時に川端康成の魂が伊豆への恩返しとしてこのルートを残した。彼が亡くなった後もこうして継承していくのがとても大切な文化だと思います。黄金のルートと言ってよいでしょう。

川端は三島由紀夫の築地本願寺での葬儀を仕切りました。私も参列したのですが、私の前に並んだのは赤旗のグループで、後ろに並んだのが中核の幹部でした。右も左もいるわけです。川端はか細い声で「平岡家はただいま蟄居の身であります」と。防衛庁に切り込んだのですから仕方ないですね。で葬儀委員長を引き受けた川端は「一人でも騒ぐ人がいましたら今すぐに葬儀を中止いたします」と言った。右翼も左翼も誰一人騒がず、肅々と長蛇の列に並んでいましたね。

三島由紀夫は最後に「豊饒の海」全4巻を書きますが、これは輪廻転生の物語です。彼は輪廻転生を信じていたんですね。彼が亡くなったのは11月25日ですが、1月14日が誕生日です。その日が

四十九日に当たる。11月25日を自決日にしたのはそのためだったのでしょうか。私がラジオでこのことを話したら「私が三島だ」という女が電話できて「今からそっちへ行く」というので、「結構です」と遠慮してもらいました。

川端康成は三島由紀夫に内心やられたと思ったでしょう。でも彼は凄かった。文化勲章やノーベル文学賞まで取った男としてこんないい位置はありませんよね。総理大臣や大会社の社長になっても悪く言われることがあるが川端のことを悪く言う人は誰もいません。みな川端先生、川端先生と持ち上げてくれる。でもそんなものはいらぬんです。最期、睡眠薬を飲むために鎌倉に家があるのに逗子のマンションを仕事場として借り、飲めないウイスキーを飲んでガス管を啜って死ぬんです。自分がノーベル賞作家だなんて関係ないんですね。74歳。名誉も何もそんなものはいらねえやとポーンと放り出してしまった。武田泰淳が言うところの「辛抱強いニヒリスト」。そんなもの凄い作家でした。

あと一つ、晩年、自分が伊豆の踊子のモデルだと言っている人がクラブを経営しているからと誘われたが川端は行かなかった。モデルっていったって自分で言っているだけです。世の中怖いでしょう。

いずれにしても、これだけ昔の建物や温泉を地元の人が大切にしているところですから、ぜひとも日本遺産に登録されることを望んでいます。

※参考文献 日本現代文学全集（講談社）・川端康成集「伊豆の踊子」

### ＜講師プロフィール＞

■あらしやま・こうざぶろう 浜松市生まれ。國學院大學を卒業後、平凡社入社。「別冊太陽」「太陽」編集長を務め、独立。1988年「素人包丁記」で講談社エッセイ賞、「芭蕉の誘惑」によりJTB紀行文学大賞受賞、「悪党芭蕉」が泉鏡花文学賞、読売文学賞を受賞。ほかに著書多数。日々、旅と食、文芸耽溺で暮らす。伊豆・東部をはじめ静岡県内を題材とする文学作品を公募した伊豆文学賞の審査員を務める。

## パネル 討論

# 「伊豆の旅館と文豪遺産」



### 〈パネリスト〉

菊地 豊氏(伊豆市長)  
 稲穂 照子氏(河津町・福田家女将)  
 古賀 方子氏(NPO法人全国街道交流会議専務理事)

### 〈コーディネーター〉

中山 勝氏(企業経営研究所常務理事、サンフロント21懇話会TESS研究員)

◆中山 テーマ「伊豆の旅館と文豪遺産」は昨年度の伊豆地区分科会で本日のパネリストとしてお越しの古賀方子様にご講演をお願いし、「伊豆で日本遺産の登録を目指したらどうか」とのご提案をいただきましたことを踏まえたものです。今後どのような展開をしていったらいいか、具体的な議論ができればと思っています。

先ほどの基調講演で嵐山先生から「伊豆は温泉場の装置、自然、住んでいる人の気遣いがミソである」というお話をいただきました。ご当地伊豆市の菊地市長、最近の観光動向などをお話いただけますか。

### 観光振興に役割が大きい道路 世界レベルのリゾート地目指す

◆菊地 かいつまんで申し上げますと、熱海ほど大きく伸びてはいませんが、緩やかに回復しています。観光施設や旅館はできたり減ったりがあるのですが、数が変わらないのはゴルフ場で利用者の減少傾向にも歯止めがかかり、緩やかに回復しています。もう少し伸び率がアップしてくれればいいなと期待しています。

これには特色があり道路の存在が大きいことで

す。新東名、東駿河湾環状道路、伊豆中央道、修善寺道路がつながった修善寺温泉は平成27年度、前年比プラス9%、湯ヶ島温泉と土肥温泉はだいたい横ばいです。選挙が近づくと「公共事業はいろいろな」とか「公共事業現状維持」が叫ばれますが、とんでもない話です。都市部の社会インフラが終わったのなら今度は我々地方に予算を付けてもらわなければ、日本のバランスある発展は望めません。それくらい道路は大きいということです。ちなみに国指定の重要文化財「天城隧道(トンネル)」は1900年に着工し、1905年に完成しています。当時は日露戦争のさなか、でも政府は天城隧道をちゃんと完成させている。こういったものはしっかりと国や県に働きかけ続けなければならぬし、その結果、修善寺までは顕著な効果が出たわけです。

土肥や湯ヶ島はアウトドアのウォーキングやハイキングが伸びつつあります。これは節約志向ではなく、先進国と同様に自然レクリエーションや滞在型観光へのシフトとみるべきでしょう。湯ヶ島温泉の広場は再開後のここ3、4年、口コミで駐車場が満杯となる日があるほど利用が増え、天城山ハイキングは年間10万人に及びます。加えて伊豆の食材の美味しさは非の打ちどころがありま



せんし、文学と歴史も潤沢にあります。これだけそろっていながら世界レベルのリゾート地を目指さない理由はないと申し上げたい。私は自衛隊時代を含めこれまでに32の国を見てきましたが、伊豆は世界の著名な観光地と比べても世界の人々に提供できるものが豊富です。この伊豆の自然や気候、文化を生かさないとはいと思っています。さらに言えば、私は湯ヶ島出身ですから井上靖への思い入れが強いのですが、ノーベル賞作家の川端康成が我々の故郷に泊まり、この地の伝統を作ってくれました。活字文化は健在です。文学を中心とした文化を資源として伊豆半島全体で活用し、世界レベルのリゾート地を目指す。1週間滞在しても飽きない伊豆半島を皆で目指しましょう。その中の大きなツールとして湯ヶ島と河津で「伊豆の踊子」からスタートしませんか。

◆中山 川端康成ゆかりの宿では河津・湯ヶ野温泉の福田家がよく知られています。稲穂さんからみて今のお客さんはどんなことを温泉場に求めていますか。

### かつての賑わい薄れた湯ヶ野温泉 外国人の方が造詣深い「伊豆の踊子」

◆稲穂 嵐山先生が講演の中で川端先生や「伊豆の踊子」のことを詳しくお話してくださいましたので、私がお話することが少なくなってしまい、ちょっと困っています。



稲穂 照子氏

昔の湯ヶ野温泉は今と比べはるかに賑やかで活気がありました。今は本当に悲しいことに旅館は3軒しか残っておらず、料理屋さんや食べ物屋さん、土産物屋さんはありません。警察官の駐在所や郵便局も移転してしまいました。何もない温泉場になってしまい、シンボルであった国民宿舎も現在取り壊し中です。ですからこの後をどう持って行くかが私たちに課せられていると思います。

湯ヶ野温泉には「伊豆の踊子」に登場した有名な共同風呂が今も健在で、湯ヶ野の人々の交流の場になっています。14歳の少女が真っ裸のまま光の中に飛び出してきてつま先で精一杯背伸びをし、主人公の学生が朗らかな喜びでコトコトと笑い続けたというあの共同風呂です。もう一つ「伊豆の踊子文学碑」があります。川端先生が滞在された

場所に建つ唯一の文学碑です。こんなに大切なものがありながら、どんどん廃れていくのは非常に悲しいのですが、今なら文学部のゼミの学生たちを呼ぶ温泉場にしてみてもいいのではないかと思います。こういう宝物があることを湯ヶ野の人たちに強く意識していただき、これからにつなげたいと考えます。

3年ぐらい前までは50～70代のご夫婦が圧倒的に多かったのですが、最近は20～30代のカップル、友人グループが増えてきました。源泉かけ流しの温泉を求めてくるお客様が70%、残りの30%は「伊豆の踊子」の舞台に浸りたいというお客様です。最近に限って言えば90%以上が「伊豆の踊子」を訪ねてのお客様です。中国では山口百恵さんの人氣が今でも根強く、百恵さん主演の映画を観ているお客様が圧倒的です。ですからとても詳しい。米国人で日本語を学ぶ大学院生もお見えになりますが、こちらは大変に詳しい。何でも日本語の教科書に載っているそうで、私もいい加減なことは言えません。私のころは高校の教科書に出ていましたが、今は出ていません。寂しいことですが、米国の大学院で日本語を学ぶ方の教科書に出ているのはとてもうれしいことです。

当館では踊子の衣装を一式そろえ、外国からのお客様に着ていただいております。お持ちのスマホなどで取って差し上げますと大変喜ばれます。お客様がその場でフェイスブックやラインなどに投稿されまますとすぐに反応があります。お部屋には「伊豆の踊子」の文庫本を置き、ロビーには翻訳本（英語、フランス語、中国語、韓国語、インドネシア語）を揃えています。

◆中山 古賀さんには昨年の基調講演でご提案をいただきましたが、なぜこの地域で日本遺産を目指すべきか、もう少しお話しいただけますか。

### 親近感持つ伊豆の役に立ちたい 観光立国もいいが国内減少が心配

◆古賀 昨年は伊豆に残る文豪たちの文化的遺産と温泉旅館を何とか残してほしいという思いから、日本遺産という方法もありますよと提案いたしました。全国街道交流会議は発足20年になりますが、10年ぐらい前には伊豆縦貫道と下田街道の活用ということで調査をしたりガイドブックを作ったりし、5年ぐらい前まで随分とこの地域を回らせていただきました。

私が小学生のころはちょうど高度成長の時代です。福岡の田舎町でしたが、家々に洋間が導入され、本棚に日本文学全集や世界文学全集、原色百科事典が並び始めたころです。三度のご飯より文

学全集を読むのが好きな私は「しろばんば」「修禅寺物語」「伊豆の踊子」などがきっかけで、子供心に伊豆という地域を情景として思い描いていました。そんな引きこもりの子供が大きくなって伊豆で仕事をするようになり、湯ヶ島温泉の白壁荘などに泊めていただき、文学者が逗留された「先生の部屋」で仕事をさせていただいたこともあります。昨年、久しぶりにおじゃまして私どもでも何かお手伝いできることがないかと思い、文化庁が始めた日本遺産に応募したらどうかと提案したわけです。

今、観光立国が盛んに言われています。どうもインバウンドの獲得という単純な話にされがちで、2020年には訪日外国人数を3000万人に達する、いや4000万人を目指そうではないかと言われています。観光立国の中で一番の問題は日本人による国内旅行の減少です。2014年の数字で訪日外国人客は1340万人、買い物を含めた旅行消費額は2兆円とされています。しかし日本人の国内旅行消費額は20兆円規模です。この消費額が10%減ればインバウンド増加分などすぐに吹っ飛んでしまいます。ですから日本人による国内観光を観光立国の一番の施策として地域でもう少ししっかりと取り組んでいくことが大事だと常日頃から考えていました。伊豆にしかない文豪遺産と温泉旅館の文化を柱にして地域の再生を目指せないかという意味で。

◆中山 稲穂さんは若いころ川端先生と交流があり、鎌倉でのお仕事を手伝っていたとお聞きしています。例えば川端先生は伊豆にどのような感想を持たれていたか、どんなものを召し上がっていたのか。日本遺産に向けて新しいストーリーを考えるうえでヒントになるようなことがありますか。



中山 勝氏

### 伊豆に精通していた川端康成 鋭い質問浴び、窮することも

◆稲穂 川端先生に伊豆をどのように思っておられたのか直接伺ったことはありませんが、伊豆についてはとても詳しくよくご存知でした。地図やガイドブックは一切ご覧にならないのに、きょうは大滝へ行きましょうといきなり目的地をおし

やって、運転手さんには「北へ」「南下して」と指示するだけです。私などは地図を見なければ分からないのにすごいなと思いました。

確かにあの大きな目でギョロッと睨まれるとすくんでしまいます。なかなか口も利いてくださらないので皆さん本当に閉口してしまいますが、辛抱強く待っていると小さな声で優しく言葉をかけてくださいます。怖い先生ではなくとてもお優しく、また茶目っ気のある先生でした。

私は運転が下手です。ある時、先生から運転を命じられましたが、案の定、店先の宣伝物などを壊してしまいました。その都度、先生が車から降りて来て「ごめんなさい」とお詫びを手渡してくださいました。車のキーをつけっぱなしにして自動ロックが掛かってしまうということがありました。JAFを待つにしても50年も前のことですからいつ来てくれるか分かりません。車のそばで長々と待つ羽目になりましたが、そんな時も決して怒るでもなく、「面白いね」とかえってその状況を楽しんでいました。

食べ物ですが、ご自宅では普通の食事をなさっていたようで、執筆のためのホテル暮らしでもホテルの食事を召し上がっていたようです。食がとても細く、体重30数kgでしたからそんなに召し上がれなかったと思います。極端な好き嫌いもなかったものと記憶しています。

私は先生が亥年生まれということを知らずにいました。母は先生のお宅へ伺うたびに猪肉を持参していました。お亡くなりになる前年の1月にお伺いした時、墨で大きく「亥」、添え書きに「六角の年 元旦 康成」と書いてくださいました。そこで初めて先生が亥年生まれということを知り、顔から火が出るほどの思いをしました。でも母は「いつだって喜んでくださったわよ」と全然反省していないようでした。

◆中山 このような具体的なお話を宿のお客様にもされるのでしょうか。

◆稲穂 しますね。「伊豆の踊子」にのめり込んでいる方は、されては困るような質問もどんどんしてきます。一方で「踊子」と言えば宝塚かSKDという方もいらっしゃいます。筑波大学文学部の修学旅行では湯本館と安田屋、福田家の3軒を回るツアーを長年やっています。私も母から受け継いでここ3、4年受け入れています。その学生さんたちの質問は鋭いですね。

◆中山 菊地市長、湯ヶ島は文学に関わる動きが活発ですね。どんな形で地元の旅館を生かしているかと考えていますか。

## 温泉とともに景観も貴重な財産 廃業旅館施設などの改善に腐心

◆菊地 日本遺産の登録には条件があり、国指定



菊地 豊氏

重要文化財がないと資格なしと聞いています。ちょうど伊豆市と河津町の境にある天城隧道がこの条件に当てはまりません。

旅館さんですが、国有形文化財の落合楼は日本遺産を考えるうえでも貴重な施設であり、白壁荘や湯本館はそのまま営業されています。湯川屋は営業していませんが建物はそのまま残っています。共同湯も残っていますので地域資源として十分活用させていただきます。

湯ヶ島温泉の中心部にある「出会い橋」は紅葉が素晴らしい。その景色は井上、川端両先生も楽しまれたはずです。湯ヶ島は温泉の魅力もさることながら、狩野川上流部の自然景観も貴重な財産です。出会い橋の下流と上流にはそれぞれ吊り橋があり、きれいな渓谷を吊り橋や橋で結ぶことでより多くのお客様に散策していただく仕掛けをしたい。森林レクリエーションを健康づくりの文化として再認識できたらと思います。

市長として課題にしていることですが、湯ヶ島温泉には使われなくなった温泉旅館施設が6軒ぐらいいり、解体にかかる費用は推定約6億円。昨年できた景観条例や景観計画、環境政策の中でしっかり取り組まなければなりません。ここを地元の我々も観光のお客様も歩かれるわけですから、なんとか改善をしていきたいと考えています。「しろばんば」の家々も上の家は個人住宅で口を挟むのはどうかと思いますが、行政の方でお預かりして少し改修したらどうか。また昭和の森の道の駅に移転している生家の一部も元の場所に戻し、地元の人々の交流の場とするとともに、「しろばんば」の世界が楽しめる使い方ができればいいなと考えます。

旧下田街道はまだ歩いていませんが、物語性のある旧道歩きは観光客にも人気があります。いい道路ができればできるほど、伝統のある旧道が脚光を浴びます。箱根がいい例です。下田街道もちゃんと歩けるよう整備したい。

◆中山 そもそも日本遺産とは何か。古賀さんの

資料を添えましたが、関わっている範囲でお話しいただけますか。

## 日本遺産は地方創生の戦略になる ストーリー発見、特色を盛り込む

◆古賀 その前に一つ思いついたことがあります。市内には川端先生が執筆のため滞在した場所がいくつもあります。今後首都圏との交流を考えてみたいかがでしょう。

全国街道交流会議は国土交通省、観光庁、文化庁などに窓口を置いていますし、首長間とも直接やり取りできるようになっています。日本遺産についても早いうちから情報を得ていました。世界遺産ということで、まず世界遺産でもいいんじゃないかというところに手を挙げてもらう。あるいは世界遺産を目指したいというところを拾ってみるという考えが日本遺産にはあったと思います。2020年の東京五輪・パラリンピックを通じていかに地方にお客様を運ぶか、地方創生につなげるか、ということが目的となっています。

日本遺産が従来の文化財と大きく違うのは保護という観点ではなく、地域の活性化のため文化財を活用することです。それにはストーリーが不可欠です。できれば複数、お金のない地域でも独自のストーリーを発掘していただく。ストーリーということを非常に強調しています。

今、旅行者は名所旧跡を単体で回るのではなく、物語をたどるようにしていろんな名所旧跡を回り、自分なりの物語を紡ぐという傾向があります。日本遺産の選定ポイントは人々から関心が持たれるか、これまであまり知られていなかった魅力があるか、専門的な知識がなくても楽しめるか、ほかの地域では絶対に見られないものかどうか、特有の文化がストーリーの中にいかに表れているかなどです。

平成27年度は第一弾として18のストーリーが認定されました。私どもの会員自治体では富山県高岡市、石川県能登半島の切子祭りなどがあります。福井県小浜市は京都へサバを運んだ鯖街道で、時間をかけて運ばれた故に海産物が熟成されて味がおいしくなるという物語です。岐阜市の場合は岐阜城だけでなく、長良川の鶴飼いで採ったアユを押し鮓にして家康に贈ったのが、信長のおもてなしの原点だというストーリーです。

平成28年度は19件の認定です。福島県郡山市の猪苗代湖は明治維新後、廃藩で職を失った武士が開拓に入った歴史があり、旧幕府軍にとっては敵であった大久保利通が尽力したというストーリーを持ち込んでいます。福井から京都を結ぶ鯖街道



は1本ではなく、たくさんのルートがありました。文化庁から地域を絞り込むように助言され、一番東側の小浜市と若狭町が一緒になって提案しました。岐阜県高山市は観光地として知られていますが、観光客が訪れるのは重要伝統保全地区の一部だけで長く滞在する人が少なく、1時間ほどで白川郷に向かってしまっていました。そこで飛騨の匠の集団に目を付け、まつわる文化財をストーリー化してなんとか登録にこぎつけました。

温泉地のケースとして第一次認定の鳥取県三朝町を紹介しましょう。三朝温泉は世界屈指のラドン温泉で、後方には三徳役行者の「投入堂」があり、日本一危ない国宝で知られています。両者の連携はあまり意識されていなかったのですが、町の文化財局長が独りで頑張って修験道の人たちがたどった道を資料の掘り起こしで見つけ、五感ならぬ六感という言葉をはらめき「六根清浄と六感治癒の地」とネーミングして申請書ができました。日本遺産の認定で地元が活性化するのはもちろん、地域の宝をもう一度探し出し、考えてみる。地元をほとんど知らない文化庁の人たちとのやり取りの中で、自分たち地元の資源を見出すという働きもあると思います。

◆中山 認定数の1年目18件、2年目19件は高いハードルでしょうか。申請の際、どんなことが重要になりますか。

◆古賀 文化庁長官が観光庁長官と協力連携し、日本遺産は文化庁の目玉政策となっています。当然、恥ずかしくないものを打ち出したいという意気込みがあります。「こういう物語はほかにもある」という観点は働くでしょう。

私どもにも「日本遺産に落ちたけれど何かいい知恵はないか」という相談があります。例えば雲上の城で売り出し中の竹田城ですが、日本で一番流量の多い城下町です。新たな取り組みとして水にちなんだイベントの収益を、水が不自由な東ティモールに寄付するアイデアを打ち出しました。でも城下町と流水というテーマはほかにもあるので少し弱い。そうなると、自分たちでは思いつかないような切り口の提案が必要になります。今までの文化財活用では思いつかない柔軟なキャッチフレーズが求められることもあるでしょう。

◆中山 日本遺産を考える時、伊豆地域が今後ど

んな地域になってほしいかが重要になります。いかがでしょうか。

## 「文学の里」づくり、もっと強化 伊豆の宝物、地域が再認識を

◆菊地 文学の里づくりをもっと強化していきたいと思います。県の文化事業「伊豆文学フェスティバル」を誘致の際、湯ヶ島の皆さんは井上靖先生の命日であるあすなる忌の1月下旬から約1カ月強を文学祭りにしていただきました。伊豆文学フェスティバルは一日だけですから、ここに現代作家を呼んでシンポジウムをやりたい。そうしないと「川端康成がいた」「井上靖が書いた」という過去形で終わってしまい、伝統につながりません。伝統文化にするためには今日の現代作家に来ていただき、あるいは住んでいただくまでやるのが文学の里づくりだと思います。

東京五輪・パラリンピックは文化プログラムが義務付けられていますから、伊豆半島全体としてすそ野の広いリゾート地にすることを目指していきたいと考えています。最近高級旅館に女性の一人旅が増えています。東京のビジネスウーマンが自分へのご褒美としての一人旅です。道路が良くなれば海のない県の人々が3泊4日で来ます。ドイツ人などは夏の休暇が2週間あり、1週間か10日、日本に来るのは何ともないのです。そんな人が伊豆に滞在できるようにしたいですね。

なぜ文豪は三浦半島や房総半島の方が近いのに伊豆に来たのでしょうか。房総半島の山は高くても400m、三浦半島は200mです。伊豆半島は1400mの山も流域面積が広い狩野川も豊富な温泉もそろっているがゆえに、日本のミニチュア版として来たのではないかと思います。これらを使って伊豆半島全体で自分へのご褒美となるような旅もできるし、1週間の滞在もできる。そんな日本遺産を目指すのが伊豆だと考えています。

◆稲穂 伊豆半島には素晴らしい温泉があります。伊豆の温泉は無色透明で無味無臭の柔らかい温泉ですから、これを源泉かけ流しでやっていくのも大切だと思います。

食文化は何でもそろいますし、景観に関しては川端先生が「伊豆は海山のあらゆる風景の画廊である」「伊豆半島全体が一つの大きい遊歩道である。つまり伊豆は半島のいたるところに自然の恵みがあり、美しさの変化がある」と絶賛しています。本当に何でも恵まれているところです。こんな宝があるということを経営の皆さんにもう一度再認識していただき、理解し、味方にして心からのおもてなしをすれば、伊豆は素晴らしい温泉地



古賀 方子氏

日本遺産は文化庁の目玉政策となっています。当然、恥ずかしくないものを打ち出したいという意気込みがあります。

になると思います。

## 認定に伴う観光客増に甘えてはダメ 世界に通じる「おもてなし」が必要

◆古賀 5年ほど伊豆に通っていたころの話ですが、九州から視察に来られた方たちと立ち寄り湯で出会いました。立ち寄り湯ですから地元伊豆の方もいます。なんとなく会話が始まり、地元の方が「どこから来られたのですか」と尋ね、「九州からです」と答えると、「九州には由布院とか黒川温泉とか名湯がたくさんあるのにどうして伊豆まで」と驚いた様子でした。九州の人からすると湯布院や黒川は新興温泉地で後発地域なんです。伊豆の名だたる温泉地の方から「九州はすごいじゃない」と言われたのには驚きました。

今月、東京大手町の徳川幕府を支えた酒井家上屋敷跡に星のや東京がオープンしました。日本旅館という文化にこだわった宿泊施設です。東京は今、江戸文化を観光に結びつけようと一生懸命やっています。星野リゾートや星のやについてはご意見もあるかと思いますが、星野さんいわく「宿泊施設のカテゴリーとして世界に日本旅館が出ていくきっかけにしたい」。日本文化に立脚したものを突き詰め、外国の方を迎えるための本物の舞台、国内の方にも本物に目覚めてもらう装置にならなければ、ということでしょう。

今後、旅館文化と文豪遺産が日本遺産に認定されたとしても、周辺に観光客が増えるだけではダメです。やはり旅館に泊まってもらって、文豪になる前の卯たちにそういう体験をしていただく。そこには世界に通じる伊豆の旅館のおもてなしが必要だろうし、文豪にまつわるストーリーもあるんだよということになるでしょう。文豪たちの物語にまつわる旅館をどう残していくか、旅館業を活性化し地域全体を活性化させるのに皆さんの知恵が必要だと思います。

◆中山 会場には県の土屋優行副知事（伊豆担当）と河津町の相馬宏行町長がお見えです。一言お願いできますか。

◆土屋 日本遺産はなるのが目的ではなく、地元の方々が過去の歴史や自然を踏まえ、どういう地域にしていけるか。伊豆半島が輝くようなものにしていかなければなりません。嵐山先生も温泉と自然だけではなく、そこに住む人々がどういう地域にしていけるかが大事だとおっしゃっていました。

2年後には出口（伊豆市）まで伊豆縦貫道がつながり、西海岸方面が便利になります。10数年後には河津までつながります。道がしっかりできて光る地域にしていかなければなりません。この

間、様々な意見を交わし、皆でいいまちにしていけることが大切です。県としてももしっかり努力しますので、今後ともよろしくお祈りします。

◆相馬 会合などでいつもお話をさせていただくのは歴史を顧みる、伝統を守るといふ文化を育まない地域に発展はないということです。行政は施設を作ることはできても、それをいかに守り伝えるかは地域の人々の努力なくしては成しえませんが、日本遺産を目指すことは大事なことです。行政だけではできませんので、多くの方々の協力をいただき、ぜひ伊豆市と河津町の日本遺産登録をよろしくお祈りいたします。

◆中山 日本遺産への登録は目的ではなく手段であり、パネリストの皆様からはいくつかのアイデアをいただきました。例えば湯ヶ島文学の里構想は将来の作家のための村をどうやって作るか、また観光に来られた方から川端先生に関するいろいろな質問を受けた時、旅館の方々ばかりでなく地域の方がどう語るか。今まで以上にコミュニケーションを取りながらこの地域について考えることが重要だと思います。

### 〈パネリストプロフィール〉

■きくち・ゆたか 氏 1981年防衛大学卒。陸上自衛隊に入隊。防衛大学教官、国連モザンビーク平和維持活動に携わる。在ドイツ日本大使館防衛駐在官、第5普通科連隊長などを歴任し、一等陸佐で退官。2008年伊豆市長。現在3期目。

■いなほ・てるこ 氏 「伊豆の踊子」の舞台となった川端康成ゆかりの宿、河津・湯ヶ野温泉「福田家」の女将。下田の高校から昭和女子大に進み、川端のノーベル賞受賞後は、引きも切らない鎌倉の川端宅への訪問客らへのお茶出しや揮毫の手伝いなどを行った。昭和女子大理事。

■こが・まさこ 氏 編集者、プランナー。2002年有志で「全国街道交流会議」を設立。同会議には街道や歴史・文化を活用して地域づくりに取り組む自治体、民間団体、個人が参画、各地のまちづくり、みちづくりへの支援や国への政策提言などを行っている。2015年7月の伊豆地区分科会で、伊豆地域と文豪たちのかかわりの活用を提案。福岡県出身。

### 〈コーディネータープロフィール〉

■なかやま まさる 氏 慶大大学院経営管理研究科修了。スルガ銀行入行後、企業経営研究所出向。主席研究員を経て2000年より部長、08年5月から常務理事。静岡県、沼津市、三島市などの委員や日大国際関係学部非常勤講師などを務める。サンフロント21懇話会TESS研究員。静岡県出身。